

## 議 事 録

会議名	令和4年度 第1回三鷹市地域包括支援センター運営協議会
日 時	令和4年7月15日（金）午後7時00分～8時30分
会 場	大研修室
出席委員	<p>【委員】 高橋 壮芳、光安 廣修、林 栄守、原 栄義、上田 典之、吉野 勇、林田 昭子、城澤 恵、高橋 慶充、吉田 洋之、小砂 恭甫、倉島 千尋、影山 悦子（順不同・敬称略）          &lt;定足数15人中13人出席：有効&gt;</p> <p>【地域包括支援センター出席者】          坂田 治美          （三鷹市東部地域包括支援センター 社会福祉士）</p>
事務局	健康福祉部部長、健康福祉部調整担当部長、健康福祉部保健医療担当部長 健康福祉部介護保険課長、健康福祉部高齢者支援課長 高齢者支援課高齢者支援係長、高齢者支援課高齢者相談係長 高齢者支援課旧どんぐり山施設利活用担当主査、他事務局4人
会議の公開・非公開	公開
傍聴人数	0人
<p>○ 委員交替          三鷹市社会福祉協議会 高橋圭一委員から高橋久実子委員へ交替          三鷹武蔵野社会福祉士会 坂本節子委員から上田典之委員へ交替</p> <p>○ 健康福祉部長挨拶</p> <p>1 令和3年度地域包括支援センターの活動実績等の報告について（資料3～4）          資料3～4をもとに、令和3年度地域包括支援センターの活動実績について説明を行い、委員多数の挙手により承認された。</p> <p>(1) 令和3年度地域包括支援センター運營業務決算について          令和3年度の収入額は3億1,977万4,868円、支出額は3億1,874万4,414円、返還金が103万454円である。この返還金は、職員求人中による人件費の減額のためであり、三鷹市社会福祉事業団より返還されている。</p> <p>(2) 令和3年度三鷹市地域包括支援センター（以下「包括」と言う。）活動実績について</p> <p>ア 総合相談・支援業務について          相談延べ件数は年々増加傾向にある。相談内容は複数分野にわたり、個別性の高い支援を必要とする方が増加している。支援で得た知識は、センター間の連携により、対応力の向上に生かしている。</p> <p>イ 権利擁護業務について          権利擁護に関する相談件数が増加している。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、地域での活動の場が減少し、孤立が進んだことが要因の一つではないか。関係機関と連携し、更に支援体制の構築を進めていく予定である。</p> <p>(ア) 身寄りのない高齢者の方の相談、支援が増加している。</p> <p>(イ) 令和3年度の虐待通報件数は97件であり、直近の年度と比較すると増加傾向にある。要因分析、早期発見、適切な支援へつなげるため、関係機関と虐待視点の共有、連携方法の周知に改めて努めている。</p> <p>(ウ) 消費者被害の相談、対応件数の増加も見られている。啓発を行い、被害予防に努めている。</p> <p>ウ 介護予防ケアマネジメント業務について          高齢者人口の増加、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化することによる身</p>	

体機能等の低下等により、介護予防支援プラン給付実績は年々増加傾向にあるため、介護予防の体制整備に努めている。

(ア) 令和3年度は市民ホールでパネル展を3回実施した。

(イ) 地域関係団体やサロン等でフレイル予防の啓発を行った。

(ウ) 市オリジナルの介護予防体操「うごこっと」の冊子を配布し周知を図った。

(エ) 健康推進課所管事業である「うごこっとチャレンジトレーニング講座」参加者が講座終了後も「うごこっと」を継続できるよう、包括支援センターの職員が体験会を企画するなど関わり、数団体の活動団体が立ち上がっている。

(オ) オンラインを活用した地域での介護予防の取組も進めている。

#### エ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について

地域の高齢福祉に関わる事業者に対し、情報提供するとともに、課題を整理しながら検討する機会を設けるよう努めており、ケアマネジメントの質の向上が図られたと評価している。引き続き、出前講座等、啓発の取組を行っていく。

新型コロナウイルス感染者対策に配慮し、オンラインや会場の人数制限を設けながら、ケア専門職交流会の開催を継続している。福祉職だけではなく、薬局や医療関係者等、新たな参加者も増えている。

#### オ 認知症施策の推進について

新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、認知症サポーター養成講座を実施した。また、新たな取組として、三鷹商工会が主催する第5回三鷹まちゼミに参加し、認知症の啓発のための講座を実施した。

引き続き関係機関と連携し、啓発に取り組むとともに、地域の実情に合わせた認知症の意識啓発、社会資源の発掘、創成にも取り組む必要があると考えている。

#### カ 新型コロナウイルス感染症に対する取組について

孤立防止に向けた新たな見守り体制の構築に連携して取り組んでいる。

急速なデジタル化の進展、発展に対し、個別でのスマートフォン講習やワクチン接種申込みの操作支援などに取り組んでいる。

### <質疑応答>

委員	一点目、「みたか認知症キッズサポーター養成講座」の内容を教えてください。二点目、資料3、23 ページにおいて、介護予防の取組へ、介護認定を受けた方はほとんど参加されていないようだ。それに対して現在どういうフォローをしているのか、今後予定しているのか。
包括	一点目については、全国で組織的に行われている「認知症サポーター養成講座」の子ども向けとして、すでに整備されている子ども向けのテキストに沿って行っている。「認知症は怖い病気ではなく誰でもなり得る。自分の祖父母にいれば優しく声かけてあげようね」というような啓発的内容の講座である。参加した児童には缶バッチを渡している。 各小学校及び学童保育所のカリキュラムに組み入れていただき行っている。学童では小学校1～3年生に対して、学校では4年生頃クラスや学年ごとに障がいの学習が入る学年で行っている。
保健医療 担当部長	二点目について、この事業は、要支援や要介護状態に進む手前のフレイル予防として行っている事業のため、このような人数差になっている。参加される中で、要介護認定がついた際は包括やケアマネジャーと連携をしていく。
会長	相談件数は地域によって差があるが、延べ人数は相談件数ほど差がない。同じ案件で、相談された回数が多いという認識でいいのか。
事務局・ 包括	お見込のとおり、延べ人数は、同内容の相談について複数回対応した場合はその度に計上している。また、複数分野にまたがった場合は、それぞれの項目別に集計している。
会長	包括の業務内容に比べ、職員数がかなり厳しいのではと感じている。

調整担当 部長	<p>今後の課題を出すにあたり、例えば虐待対応で事前に防げなかったケースなどが実際あるならば、紹介いただきたい。そうなってしまう可能性もあるのではないかという観点からの質問である。</p> <p>私は令和2年度に井の頭包括を所管する「はなかいどう」に出向していたが、うまくつながらなかったケースというのはあまりなかったと思う。ただ、かなり時間をかけて対応している困難ケースというのはある。</p>
包括 会長	<p>包括の意見も同様である。</p> <p>地域包括ケア会議ではどういった課題が出てきて、今後どういったものに展開していくのか。</p>
事務局	<p>地域包括ケア会議では、第1層は困難事例や居宅介護支援専門員への支援、第2層では地域課題、日常生活圏域全体の課題を検討している。</p> <p>さらに三鷹市独自の取組として、包括職員が集まって各日常生活圏域の地域課題を集約する会を2.5層のような形で「まとめの会」として行っている。</p> <p>昨年度、そのまとめの会で優先的課題として扱ったのは、「認知症に関する支援普及啓発」と、「多問題を抱える地域の方に出会える仕組みづくり（丸ごと相談会）」の2つである。</p> <p>前者については、認知症地域支援ネットワーク会議に地域の課題を提案、認知症サポーター養成講座の有効活用、養成講座卒業者へのフォローアップ講座の継続的案内、講座内容の検討を担当職員と共有して行っているところである。</p> <p>後者については、地域の実情に合わせてまず行って見て、どういった支援体制が必要なのか、連携先が必要なのかというところをまとめていこうというところである。</p>
包括	<p>包括でも8050問題など、多世代・多問題家庭のことは課題と考えている。高齢者の子ども世代の問題は包括の対象ではないが、支援者がつくところまでお手伝いをし、チームを組んで、その家庭を支援するといったところをできるような形を目指している。</p>
委員	<p>民生委員が多問題家庭の相談を受ける際、高齢者ではない世帯員がいる場合もあるが、包括につないでもいいだろうか。民生委員協議会の中で共有したい。</p>
高齢者支 援課長	<p>包括はやはり高齢者がメインの場所ではあるが、高齢者の子ども世代の問題など担当セクションへ橋渡しをしたいと考えている。支援が必要とされるかたの話をしっかりと伺いながら対応していきたい。</p>

## 2 介護予防ケアマネジメント委託事業所の承認について（資料5）

委員の多数の挙手により2件が承認された。

## 3 その他報告事項

次回の地域包括支援センター運営協議会は令和5年2月に開催予定である。